四月五雲能

四月十六日（土）
午後一時始
正午開場
於　宝生能楽堂

13:00

志賀

シテ　佐野玄宜　ツレ　金野泰大

ワキ　舘田善博
ワキツレ　未定　〃　未定
間　若松隆

後見　佐野由於　小林晋也

地謡　上野能寛　朝倉大輔　金森隆晋　辰巳大二郎　渡邊茂人　高橋亘　野月聡　内藤飛能

大鼓　柿原孝則　小鼓　田邊恭資　太鼓　徳田宗久　笛　杉信太朗

14:20

口真似

山本泰太郎

山本凜太郎　山本則重

〈休憩十五分〉

14:55

胡蝶

シテ　小倉健太郎

ワキ　野口琢弘
間　山本則秀

後見　金森秀祥　澤田宏司

地謡　藤井秋雅　金井賢郎　川瀬隆士　佐野宏宜

大鼓　大倉慶乃助　小鼓　清水和音　太鼓　澤田晃良　笛　小野寺竜一

16:30

藤戸

シテ　山内崇生

ワキ　福王和幸
ワキツレ　矢野昌平
間　山本則孝

後見　宝生和英　亀井雄二

地謡　木谷哲也　今井基　田崎甫　金森充　朝倉俊樹　大友順　東川憲　高橋光夫　熊本俊太郎

大鼓　柿原光博　小鼓　鳥山直也

終演予定十六時四十分頃

〈休憩十五分〉

演目の解説

能「志賀」（しが）

当今に仕える臣下が、
人と見えし桜の盛り
なるは花の山越え
ことの葉を添へ流れ
ばかりに会ひ老人
なほ掛け合ひ答へる
ぬ。夢の花の風情
中に出で、人の
夜の神の姿、桜
神の楽を舞ひ、
舞の舞ひ、
をの臣下の
現の徳に
れ、名を
ま、の褒め
す。の功を
卑賤の
臣下の
山下に
越に
陰に
え、
桜の
盛り
老る

能「胡蝶」（こちょう）

吉野の山奥から京へやって来た僧が、一人の美しい女に誘われて、自分は草花の精だと名乗り、春の来た喜びを言葉に出して、梅の花の咲き乱れる中を、蝶の舞ひ戯れる姿を思ひ浮かべ、僧の身に成りて、夢の中に現れ、一声の鶯の囀に、目覚めて、夢とは思へども、名残惜しく、一夜の明け方に、美しき蝶の姿を、木の陰に隠れて、眺めるうちに、夕暮れの空に、月の出でて、花の陰に、蝶の姿は、消えにけり。

能「藤戸」（ふじと）

前の佐々木盛綱は、先陣の功により、児島を賜はり、家来に連れて、渡海の途中、年老いた漁師に、出会ひ、訳を聞くに、我が子を、殺されし、恨みを、訴へ、秘密を、明かす。盛綱は、浅瀬を、渡るとき、漁師の、言葉に、従ひ、立ち帰り、浅瀬を、探り、無事に、渡海を、成し遂げ、漁師の、法力に、よりて、成仏し、漁師の、霊に、向かひ、盛綱は、殺生の、罪を、懺悔し、漁師の、亡骸を、手厚く、葬る。

チケット料金（税込）

全席自由席
一般　5,500円
学生　2,750円
（当日要学生証提示）

ご購入は、各能楽師
または
オンラインチケット
・宝生会事務局まで